

特定非営利活動法人 市民がつくるTVF
代表理事 小林はくどう

市民が運営する新しいスタイルの映像祭「市民がつくるTVF2011」
90歳のベテランから中学生まで、277作品が集まる

・入賞30作品をホームページで公開配信予定(12月中旬より)

特定非営利活動(NPO)法人市民がつくるTVF(代表理事:小林はくどう)が主催するNPO法人として第2回目となる市民映像祭「市民がつくるTVF2011」には、277作品(29都道府県より国内268作品、3の国と地域より海外9作品)の応募がありました。※前年応募数159作品・前年比174%

応募者は、全国各地のビデオクラブ所属のアマチュア映像作家や映像・メディア研究の学生グループ、市民活動に取り組む個人や団体、市民ジャーナリスト、ビデオ愛好家など、プロ・アマ問わず幅広い領域からの参加がありました。年代別では、最高年齢の90歳を筆頭に60歳以上が全体の37%、中学生を含む、大学生・専門学校生を中心とした10~20代が48%、とシルバーと若者が二分。また、女性は年代を問わず全体の約1/3(32%)となっています。

今回の特色は、6割がドキュメンタリーで、地域活動のNPOや大学では社会学やメディア専攻の学生応募が増えたこと、また、世代を超えた女性作家たちがパワフルに挑戦した興味深いものが顕著なことです。新たな作品傾向として、①世相を反映したジャーナリズム作品の増加(例えば中国や沖縄の戦争の傷跡と交流、ホームレス、朝鮮学校問題、限界集落での生活など女性のレポートが光る)②地域に目を向け、新たな共生を試みようとするコミュニティビデオの増加(山里生活、災害が起きた団地での連帯感、都心の再開発に取り組む町内会、若者たちのアートによる街づくりなど)③秘蔵映像から町や家族のあり方を考えようとする作品群が新鮮④熟年世代の身近日記、自分史に加えて、若者の葛藤の自画像の増加⑤実験としてドキュメンタリーとドラマの枠を取り払おうとする作品や、ワンシーンワンカット、2画面合成や、CG・アニメ・実写などを組み立てたオペラドラマ、砂絵アニメーションなどの表現に新しい映像の息吹を感じる作品群の登場、となっています。

現在、応募作品は一次、二次審査を経て最終審査段階に入っており、6名の審査委員(下記参照)による本審査で、12月中旬には入賞30作品(「優秀作品賞」15作品、「佳作」15作品)を選定します。

入賞作品につきましては、12月中旬にNPOホームページ(<http://tvf2010.org/>)で公表。また同時に、入賞作品の配信もスタートし、NPOサポーターによる「市民賞」投票の受付も開始します。

なお発表・表彰式および上映会は2011年1月29日(土)に日本工学院専門学校で開催する予定です。

【審査委員】 大林宣彦 (映画作家)
小林はくどう (ビデオ作家、成安造形大学名誉教授)
佐藤博昭 (ビデオ作家、日本工学院専門学校講師)
椎名 誠 (作家)
高畑 勲 (アニメーション映画監督)
羽仁 進 (映画監督)

【入賞作品発表】 2010年12月中旬にホームページで発表、配信上映(「優秀作品賞」15、「佳作」15)

【発表・表彰式/上映会】

2011年1月29日(土) 日本工学院専門学校・新校舎ホールにて
(東京都大田区西蒲田5-23-22)

最寄駅: JR京浜東北線、東急池上線、多摩川線「蒲田」駅

(本件に関するお問い合わせは下記にお願いします)

特定非営利活動法人 市民がつくるTVF 事務局長 牛頭 進 (ごず すずむ)

〒143-0015 東京都大田区大森西2-16-2 ころぼ大森内 TEL. 03-6404-6613 FAX. 03-6404-6614

URL: <http://tvf2010.org/>